

**参加者募集**

**2019秋 キューバ平和友好訪問団**



**革命60年のキューバへ**

2019年秋のキューバ訪問団が始動しました。

キューバ革命60にあたる今年の訪問団は、革命戦勝利を決定づけたサンタ・クララはじめ、革命後、最初にして最大の危機といわれる米国の「ピッグス湾侵攻」を総力で食い止め、革命防衛を果たした英雄的な場所、プラヤ・ヒロンを訪ねます。

また、深い友好を築いてきた青年の島日系人協会とCUBAPONの悲願である「友好の家」建設が進んでいます(4面に関連記事)。今回、青年の島を訪れ、日系人協会の友人たちとともに、「友好の家」の完成を喜び合います。

プラヤ・ヒロン、青年の島ともに個人ではなかなか行けない場所です。ぜひこの機会に、2019秋キューバ訪問団に参加してみませんか。



**プラヤ・ヒロン**

1961年4月15日、キューバ最大の軍基地であるコロンビア兵営を米軍機が空襲、翌日、犠牲者の追悼集会でフィデルがはじめて「キューバ革命は社会主義革命である」と宣言し徹底抗戦を呼びかけた。

4月17日、ピッグス湾のヒロン浜に米国政府の支援を受けた侵攻軍1500人余が上陸、フィデル・カストロの指揮のもと総力で戦い、75時間で撃退した。

プラヤ・ヒロンは中南米地域で米国の軍事侵攻を退けた唯一の場所として、キューバの人々の誇りとなっている。

**青年の島**

キューバ本島の南にある島。第二次世界大戦時、日本人が拘留された歴史から日系人が多く住み、日系人協会の活動も活発。

現在、CUBAPONの協力で日系人協会本部「友好の家」の建設が進んでいる。(下の写真は現場を監督する設計士ヨアンディ氏)。



- ※ 日程は調整中につき変更になる場合があります。
- ※ ご希望の方には、詳細が決まり次第、資料を送付しますので、ご連絡下さい。(03-3268-6014 :IFC 鎌田)

**2019年11月29日～12月6日(8日間)**

	月日	都市名	スケジュール	食事
1	11/29 (金)	羽田発 ハバナ着	午後：空路、トロントへ 国際線乗継ぎ、ハバナへ	朝：機 昼：機 夕：×
2	11/30 (土)	ハバナ プラヤヒロン	<b>革命防衛の地、プラヤヒロンを訪ねる！</b>	朝：○ 昼：○ 夕：○
3	12/1 (日)	サンタクララ	<b>革命戦を決定づけたサンタクララを訪ねる！</b> (チェ・ゲバラが眠るゲバラ廟・ゲバラ博物館他)	朝：○ 昼：○ 夕：○
4	12/2 (月)	青年の島	農場見学、日系人ファミリーとの交流 日系人協会本部「友好の家」視察など	朝：○ 昼：○ 夕：○
5	12/3 (火)	青年の島 ハバナ	【世界遺産】ハバナ旧市街とモロ要塞 革命広場、ホセ・マルティの塔、革命博物館他	朝：○ 昼：○ 夕：○
6	12/4 (水)	ハバナ	文豪ヘミングウェイが愛した漁師町コヒマル 診療所視察、友好協会、労組センター表敬訪問等	朝：○ 昼：○ 夕：○
7	12/5 (木)	ハバナ発	早朝、空路帰国の途 トロント経由、羽田へ	朝：○ 昼：機 夕：機
8	12/6 (金)	羽田着	午後：羽田着  お疲れさまでした	昼：機

## ● CKKキューバ教育訪問団

4月21日から30日までの10日間、「CKK（キューバ教育研究会）教育訪問団」のメンバー15人がキューバを訪れ、小・中学校、高校で教師や生徒たちとの交流を通して、キューバの教育の現状を視察しました。

また、陸路でハバナからサンティアゴ・デ・クーバまで、サンタクララ、シエンフエゴス、トリニダ、カマグエイ、バヤモで歴史と文化に触れながらキューバ本島のおよそ5分の4を走破。まさに「キューバ満喫」の旅でした。



羽田を出て18時間、夜中にハバナに到着した翌日、早朝さっそく小学校の視察に訪れた私たちが子どもたちがアフリカのリズム、コンガの歌と踊りで歓迎してくれました。

キューバは多様な人種で構成されている国で、子どもたちの肌の色もさまざまですが、アフリカから連れて来られ、奴隷という究極の差別を受けた人々のルーツであるアフリカの文化を全体で共有する姿勢に、差別のない平等な社会をめざしてきたキューバの「本気度」を見た思いがしました。おやつ時間も、性別や肌の色でまとまることなく、多様性を自然に受け入れているキューバの子どもたち。「日本ではどうだろう、アイヌや在日コリアンの文化を積極的に教育の場に取り入れて、差別のない社会をつくれませんか」と思いました。

その日の午後は中学校を、翌日は高校を視察しましたが、どの学校でも競うように挙手して意見を言う生徒が多いように思いました。男子も女子も手を挙げて、指名されれば堂々と意見を述べるし、指名されなければ何度でも挙手する、こういう積極性も教育の成果なのでしょう。

一つ残念だったのは、高校で、「将来、教師になりたい人は？」との私たちの質問に、になりたい生徒が一人もいなか

## キューバの未来を映す 子どもたちの笑顔に触れて



ニコラス・エステバネス小学校の授業風景

ったことです。私たち以上に、その場にいた教師の皆さんも相当ショックを受けたようでした。校長先生が気を取り直して「弁護士、宇宙飛行士、スポーツ選手、みんなやりたい職業はあるだろうが、どんな職業でも、その基礎を作るのは教師なんだ」と情熱をもって語られたのが印象的でした。彼の情熱はきっと誰かの心に響いて、将来、教師になろうという生徒も出てくるのではないかと思います。

4日目、ハバナから東に向かって出発し、チェ・ゲバラゆかりの地サンタクララ、フランス人によって築かれた美しい街シエンフエゴスを経てトリニダに到着しました。



古都トリニダでは世界遺産インヘニオス渓谷まで列車から美しい景色を見たり、カンチャンチャラという独特なカクテルのお店に行ったりと、楽しく過ごしましたが、かつてサトウキビ生産で栄えた町には、

アフリカから連れて来られ、非人間的な環境に置かれた奴隷の辛い歴史があることを知りました。

翌日はカマグエイ、バヤモを経てサンティアゴ・デ・クーバへ。革命のゆりかごと呼ばれるサンティアゴでは革命の出発点となったモンカダ兵営など革命史跡を訪ねました。また、フィデル・カストロが眠るサンタ・イフィヘニア墓地ではフィデルの墓前に献花し、荘厳な衛兵の交代に立ち合いました。

サンティアゴからハバナに戻る飛行機が遅れ、真夜中の到着となりましたが、翌日も元気いっぱいハバナ市内観光と、なかなかハードな行程ではありましたが、体調を崩す人もなく、100%キューバを満喫した10日間でした。

2019・CKK教育訪問団 事務局員 村上久美子



サンティアゴ・デ・クーバ革命広場（アントニオ・マセオ像）

# 教育・医療・福祉 革命の思想を社会に感じて

## ●キューバ・日本・尼崎訪問団

5月22日から29日までキューバを訪問した「キューバ・日本・尼崎友好訪問団」は、7名とも初めてのキューバ訪問でしたが、革命60周年の節目である本年、革命の歴史、実相に触れ、また労働者中央組織や諸国民友好協会の表敬訪問を通じて社会制度における民主主義、男女共同参画、社会主義政治体制の神髄である平等性、格差是正等が実践されていることを共に学び感銘しました。

中学校、診療所、高齢者施設等の見学を通じて感じたことは、教育、医療等全て公費負担、無料ということで、人類の普遍的価値を重んじる姿勢はすばらしい限りです。

学校教育は小中学校が義務教育で、小学校は25人、中学校は30人と、少人数学級であること、不登校対策や障がい児教育は専任教員を配置していること、各学校は校長、保護者、地域、生徒のそれぞれの代表で構成し学校運営していること、職業専門学校（二年制）があり就職を容易にしていることなど、お話を伺いました。

医療では地域住民約1,000人を単位としてファミリードクター制度をとり各診療所に医師（所長）が24時間常駐し、巡回家庭訪問や予防医療を徹底していること、治療、検査、入院等は上級の診療所、中核病院で手厚く対応していること、高齢者施設は通所、入所施設があり、在宅支援等をおこなっていることなど、社会保障制度、福祉施策として安全、安心網が確立されています。

革命博物館をはじめ、革命広場、モロ要塞、サンタクララの列車転覆博物館等を訪ねて感じたことは、革命勝利まで多くの革命戦士が犠牲となりましたが、フィデル・カストロ、チェ・ゲバラなど革命指導者が「貧困、差別、抑圧」からの解放という当初の思想、信念を貫いたことで今なお革命の志が息づいている、そういうキューバに感動しきり



↑医療施設を視察（ハバナ）



←中学校を訪問（ハバナ）

でした。

世界遺産のハバナ旧市街、トリニダ近郊のロス・インヘニエロス渓谷等々も風光明媚ですばらしい。文豪ヘミングウェイゆかりのコヒマル、クラシックカードライブ、ホテルやレストラン等のラテン音楽にもすっかり和みました。

少子化や開放経済への対応など課題もありますが、革命思想を基本に「キューバ型社会主義」の追求を、そして、米国による制裁、介入、恫喝に対しても断固とした闘いを大いに期待します。（記：2019年5月31日）

キューバ・日本・尼崎友好訪問団団長 今西正行



世界遺産／モロ要塞

## TROPIC-TOUR

### アイエフシー

はCUBAPON関連の手配旅行社です  
キューバをあなたに届けます

- ◆ アイエフシーはIFCC国際友好文化センターの関連旅行社です。“人と人との出会い”を通じた友好・交流プログラムを演出します。
- ◆ アイエフシーは文化、政治、福祉、環境分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
- ◆ アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム・中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマークなど北欧のプランニングを行っております。

東京都知事登録旅行業第3-3757号

〒162-0801

東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405

TEL 03-3268-6014 FAX 03-3268-6079



【友好の家建設とは】故・松矢文雄 CUBAPON 事務局長の遺金 100 万円を元に君島一宇・代表委員の協賛金で進められているプロジェクト。キューバ側カウンターパートは青年の島日系人協会。



# 青年の島「友好の家」ただいま建設中！

青年の島から嬉しいお便りが届きました。  
CUBAPONと青年の島日系人協会の友好の証ともいうべき「友好の家」（日系人協会本部）の建設が順調に進んでいるそうです。

ハバナの竜巻被害の影響で工事は若干遅れは出ているものの、懸念されていた材料の調達は順調に進み、予定通り完成するとの見込みで、今年 11 月 29 日出発で計画中の 2019 友好訪問団（1 面参照）で完成した姿が見られるということです。

## CUBAPON18年度収支（18年6月1日～19年5月31日）

支出		
会報印刷代	42,228	56号、57号
その他印刷代	62,296	チラシ、封筒、資料
送料	92,013	会報、連絡など
事務局諸費	39,880	会議費、HP分担費等
事業費	140,000	21回訪問団経費補填
資料代	0	
借入金	84,791	17年度借入
計	<b>461,208</b>	
収入		
会費	165,000	55人
18寄付金①	86,000	CUBAPON活動へ寄付(18件)
18寄付金②	49,848	大使館との交流経費送料一部補填
18借入金	160,360	IFCCより便宜供与で清算
計	<b>461,208</b>	

※竜巻被害支援カンパ 97,000 円(17人)は次回訪問団が持参予定です。

カンパ・会費納入へのご協力、  
ありがとうございます！

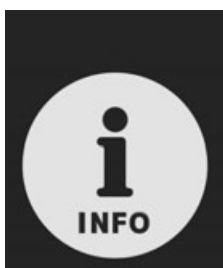
- 前年度より支出経費は 7 万円ほど削減されましたが、累積借入は 160,360 円ほどになり IFCC から借入を受けています。このうち 18 年度赤字分は 75,569 円です。
- 求められている活動と組織体力との差が大きくなっていますが、トランプ政権による圧政が中南米に吹き溢れており、ベネズエラ連帯もキューバ連帯と同一線上で情報発信したく思っています。
- 任意の支援をお願いしていくことにします。

## CUBAPON 会費協賛と活動協力カンパを呼びかけます



ベネズエラ情勢をはじめ中南米情勢が緊迫しています。  
CUBAPON はキューバ連帯の旗を掲げるとともに、中南米人民の闘いと状況を発信していきます。

ご協力をおねがいします



- 第 9 回 キューバ連帯アジア太平洋地域会議がネパールのカトマンズで 7 月 26 日、27 日開催されます。CUBAPON は参加費用（滞在費用含む）を補助いたします。参加希望者を募っています。希望者は CUBAPON まで。
- 最新のキューバの今を映し出す『経済封鎖下のカリブの社会主義 Part XX』頒布中。（2019 年 3 月発行、頒価 800 円・送料込み）CUBAPON までお申し込みください。
- 本号報告のキューバ教育研究会・第三回調査団報告書が近日発行（8 月初旬予定）されます。小・中・高校視察を網羅したキューバ教育のレポート。（A4 版 30 頁、頒価 500 円）希望者は Email:motomuko@js7.so-net.ne.jp 越川様まで

# 米国が経済封鎖をさらに強化

トランプ政権の「キューバいじめ」が止まりません。  
今度は船舶でのキューバ渡航を完全に禁止するなど  
「封鎖の強化策」を発動してきました。



↑最後のクルーズ船に別れを告げるハバナ市民

【キューバ大使館資料】

## 封鎖の強化策を前にしてキューバは怯まない

### 革命政府声明

キューバ共和国革命政府は、米国政府が2019年6月4日に発表した施策を最も強い言葉で非難するものである。同施策は60年以上に及ぶ対キューバ経済封鎖を強化するものであり、封鎖によってキューバ経済が受けた損害額は2018年時点で、時価ベースで1,340億ドルを超え、国際市場の金価格に対するドル下落を考慮すると9,330億ドルを超えた。

発表によると、この新たなエスカレートは6月5日から施行される。米国民のキューバ渡航制限を強化し、追加策として米国発のあらゆる種類の船舶を完全禁止とし、クルーズ船のキューバ寄港を即時禁止とするものだ。

その狙いは相も変わらず、キューバ経済を窒息させ、国民に害を及ぼすことで政治的譲歩を迫るというものである。今回のケースではそれに加え、米国民がキューバの現実を知ること、日常的に捏造されている反キューバ中傷キャンペーンの効果が薄れるのを防ごうとしている。

これは米国民の多数派意見を軽視する行動であり、米国民はキューバに関心を寄せ、渡航する権利を行使しようとしている。それを示す数字として、2018年には50万人の米国在住キューバ人と共に、65万人の米国民がキューバを訪れた。去る4月17日、ジョン・ボルトン米大統領補佐官（国家安全保障問題担当）は反キューバ・ショーの場でプラヤ・ヒロンで敗北した傭兵たち、及びフルヘンシオ・バティスタ独裁の子分たちの家族を前に、現政府は親族以外のキューバ訪問を制限するだろうと警告した。周知のように、この人物は米国の対西半球外交政策を私物化し、地域全体の平和と安定にとって主な脅威となっている。

米国は臆面なくモンロー主義を推進し、西半球諸国の主権平等と自決権を否定しようとしている。このところの対キューバ猛攻撃の議論においては新たな口実が用いられている。最もよく知られているのは、キューバがベネズエラに軍事介入しているという中傷的非難であり、この嘘は公然と、かつ、一貫してキューバ政府によって否定されている。

米国はキューバに対して革命の外交政策に付随する信念と原則に背くよう提案し、その引き換えに対キューバ経済封鎖の厳格かつ犯罪的措置の交渉や緩和を約束するという、無節操の極みに至っている。ニコラス・マドゥロ合憲大統領、ポリバル・チャベス革命、そしてベネズエラ国民の市民軍事連合とのキューバの連帯は変わらない。ベネズエラでは2万人を超えるキューバ人協力者たちが主に医療分野において自主的かつ献身的なサービスを提供しているが、彼らはベネズエラの人々が彼らを受け入れる限りそこに留まり、姉妹国との協力を続けるだろう。

キューバ人にとって、裏切りは選択肢にない。我々は無知ではない。我々が独立を求め困難な闘いを開始して既に150年経つ。我々は独立初日から、アメリカ帝国主義の覇権的野心に立ち向かわねばならなかったのだ。

キューバは、脅迫に屈したり、経済発展や社会主義構築に不可欠かつ緊急の課題から気をそらしたりすることはないだろう。我々は密に団結し、いかなる挑戦的な逆境にも立ち向かうことができるだろう。米国は我々を窒息させることも、止めることもできないだろう

2019年6月5日、ハバナ



## セニョリータの キューバ★ウォッチ

CKK 教育訪問団（2面参照）グループの帰国後、しばらくキューバに残ってカサ（民宿）生活をしてきました。

キューバではなぜか、毎回、何かしら消えます。一昨年とはトイレットペーパー、昨年は小麦粉、一時的に「どこを探してもない！」という状態になるのです。

今年は鶏肉でした。スーパーの冷凍庫は空っぽ。入荷したと聞いてお店に行くと長蛇の列ができていました。

どういふことかカサの大家ママに聞くと、「ヘルムズ・バートン法第三章適用のせいで『特別期の再来もあり得る』ってラウルが言ったの。それで市場が狂っちゃったのね」と、まるで「ラウルのせい」というような口調でした。

革命司令官の一人ギジェルモ・ガルシアがテレビで「ダチョウを繁殖して食糧不足に備えたらどうか」と発言したとかで、ショックがさらに広がったという話も聞きました。

しかし、キューバ人は強いです。大家ママは「ダチョウもいいけど、イグアナも食べられるそうよ。ワニだって鶏肉よりクセがなくて美味しいらしいわ」と、なんでも食べる気満々です。「キューバが何年闘ってきたと思う？60年よ！今さら降参すると思う？なんだって食べて生き延びてやるわ！」と威勢がいい。

鶏肉はその後、買い占めや転売を防ぐため1人2パックまでという新しいルールができ、徐々に市場に戻ってきたと聞きます。革命政府のこうした適切な対応と市民の闘争心で米国の攻撃に打ち勝つことでしょう。

# フ・フ ベネズエラを 知る集い

## 再び、なぜベネズエラか！

- 豊かな石油資源故に餓狼どもの餌食となってきたベネズエラ人民は1998年チャベス政権を誕生させ、豊かな資源を我がものとした。しかし、餓狼どもは執拗にチャベス暗殺やクーデターを画策してきた。それはマドゥロ政権下でも執拗に続いている。ベネズエラ海外資産凍結は6大銀行だけでも4,114万ユーロに及ぶ。
- なぜ、世界が注目するのか。現代史に“社会主義の終焉”を刻印するためだろう。チャベスはラテンアメリカ解放を唱え国名をベネズエラ・ボリーバル共和国とし2000年代ラテンアメリカに多大な影響を与えてきたからだ。
- チャベスは2005年 餓狼どもが操る国際民間放送局(CNN など)に対抗して中南米全体を網羅する「南のテレビ teleSUR」を開局してきた。これも餓狼どもの逆鱗に触れた。1989年米国は日本のトロン計画を圧殺した。今、中国のファーウェイに圧力をかけている。いずれも電気通信・情報処理の分野の占有を目論んだものだ。(K)

ファン・グアイド国会議長が自ら「ベネズエラの大統領に就任する」と宣言して以降、マドゥロ大統領支持勢力とグアイド支持勢力の間で対立が深まっています。



4月30日、グアイド氏は「軍は自分たちの側にある」と述べ、クーデターを企てました。米国のポルトン米大統領補佐官もベネズエラ政府高官数人の名前をあげて「全員マドゥロ氏辞任で一致している」と発表、マイク・ポンペオ米務長官は「マドゥロ氏が航空機でベネズエラを出国しキューバに渡る準備をしていたが、ロシアに説得され取りやめた」と述べました。

結局、軍のマドゥロ支持は揺るがず、クーデターは失敗に終わったものの、信憑性の薄い情報がしばしば意図的に流される中、ベネズエラの状況はますます見えにくくなっています。

キューバの兄弟国、ベネズエラでなにが起きているのか？メディアが伝えるベネズエラ報道は真実なのか？このことを考える「ベネズエラを知る集い」にぜひご参加ください。

とき **7月7日(日)**  
13時開会(16時終了)  
ところ 明治大学リバティタワー  
1153教室

内容  
● 講演『ベネズエラ問題の深層』  
講師 伊高浩昭氏

● 映像上映、他  
連絡先 同 実行委員会  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333  
辻ビル 405 クバボン気付  
FAX03-3268-6079  
Email:venezuelawoshirukai@gmail.com



「ベネズエラを知る集い」に  
ぜひご賛同ください

※ 詳細は、同封の「お願い」  
を「参照ください」

■ 個人 一〇千円  
■ 団体 一〇三千円



## 真実と連帯の力を集めて 「4.20 ベネズエラと連帯する集い」開催

去る4月20日、「ベネズエラと連帯するつどい」(主催:本郷文化フォーラムワーカーズスクール)が開かれたホールは、大勢の参加者で埋め尽くされました。

米国およびEUとその追随諸国がベネズエラに対して金融制裁を実施し、経済戦争

で生活必需品を不足させるなどの干渉を続ける一方、日本のメディア含め主要商業メディアがマドゥロ政権を「失敗国家」「独裁国家」と断じ、米国政府が「人道的危機」であるとして軍事介入をほのめかすという緊迫した状況に置かれたベネズエラの本物の姿を知ろうと、セイコウ・イシカワ駐日ベネズエラ全権大使のお話しに会場全体が熱心に聞き入りました。

大規模停電のさ中にも毎週のように街頭に結集してマドゥロ支持を表明する多くの市民や、ボリーバル革命を守ろうとコレクティブと呼ばれる革命防衛組織に参加する自覚的な市民の行動など、メディアには絶対に出てこない真実を知り、参加者からは「今後もベネズエラと連帯していきたい」との声が数多く出されました。

CUBAPON



- 社会主義協会発行の「月刊社会主義」4月号に「キューバ革命60年目の挑戦」と題し、キューバの憲法改正プロセスについての記事が載りました。
- 女性会議中央本部発行の「女のしんぶん」6月10日号から月1回、5回シリーズでキューバ関連の記事が掲載されます。
- お近くに購読者がいるなど、入手可能な環境であればどうぞお読みになってください。